

令和6年度 第1回櫛引地域振興懇談会 会議録

1 日 時：令和6年8月27日(火) 14:00～16:00

2 場 所：櫛引庁舎 第1会議室

3 出席者：敬称略

(出席委員) 高橋治郎、遠藤守、安野良明、五十嵐誠一、佐藤正幸、上野由部、秋山彌里、清和ふみ子、本間与一、馬場合

(欠席委員) 高橋正、釧持康光、宮城妙、叶野由佳、渡会美香

(本 所) 市長 皆川治、副市長 阿部真一

地域振興課長 菅原青、地域振興課主査 渡部久美子

(櫛引庁舎) 支所長 佐藤友志、総務企画課長 遠藤直樹

市民福祉課長 佐藤栄一、産業建設課長 佐藤秀一郎

総務企画課長補佐(兼)まちづくり企画調整主査 河井利恵子

市民福祉課長補佐 佐藤千冬、産業建設課長補佐 佐藤隆一

総務企画課未来事業推進員 伊藤由美

4 会議次第

〔新委員紹介〕委嘱状交付

1. 開 会

2. あいさつ 高橋会長、皆川市長

3. 報 告

(1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について

(2) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について

4. 懇 談

(1) 櫛引地域重点施策及びまちづくり未来事業について

・くしびきゅ～Townの利用促進について

・櫛引たらのきだいスキー場の活用推進について

5. その他

6. 閉 会

5 会議資料

報告(1) 令和6年7月25日大雨に係る櫛引地域における主な災害状況、他〔当日配布〕

(2) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項の対応について(主なもの)

[資料1]

懇談(1) 令和6年度櫛引庁舎重点施策について〔当日配布〕

櫛引地域まちづくり未来事業の取組み状況について〔資料4〕

・くしびきゅ～Townの利用促進について〔資料2、当日配布①～③〕

・櫛引たらのきだいスキー場の活用推進について〔資料3〕

3 報告

- (1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について（産業建設課長説明）
- (2) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について（支所長説明）

委員より意見・質問 無し

4 懇談

- (1) 櫛引地域重点施策及びまちづくり未来事業について（各課長説明）
 - ・くしびき温泉ゆ〜Townの利用促進について（市民福祉課長説明）
 - ・櫛引たらのきだ이스キー場の活用推進について（産業建設課長説明）

委員より意見・質問

【C委員】

フルーツ振興について、昨年からの高温障害の影響でさくらんぼの収量が極端に落ちた。この影響はやはり農家の今後の取り組みに相当影響するのではないかと思う。それと同時にこの高温がこれから毎年のように続いた場合、どのような対策が必要なのか、当然必要になってくると思う。その辺について鶴岡市としては、櫛引地域としてはどういう対策を講じていくのか、今年の実績等も踏まえてお聞きしたい。

【産業建設課長】

近年、高温や大雨などの異常気象による災害が頻発しているが、県と連携をしながら対策を講じていきたいと考えている。例えば高温に強い米を推奨したり、農協の方でも農家の皆さんと連携を図りながらやっているので、鶴岡市もそういう部分に寄り添いながら対応していきたい。

【C委員】

大変手間暇のかかる果樹栽培になかなか若者が取り組まない。後継者がいなければ終わりだという農家が現実的に目の前にいっぱいいる。取り組もうとしている若者に、集積の仕方も含めて行政の方で具体的に手当を示して欲しい。この地域では大変必要なことだと思う。これからブドウの収穫期に入りこの雨がブドウにどのような影響があるのか心配だ。色々な調査事業も必要だが、具体的な手当を示して欲しいというのが農家の切実な気持ちだと思う。それがあってこのフルーツタウンとしての櫛引エリアの存在価値、魅力アップに繋がっているんで、観光も含めそういうことに取り組んでいこうとするのに大変重要な要素だと思う。ぜひその辺をお願いしたい。もしお考えがあればお聞きしたい。

【市長】

さくらんぼについては昨年の猛暑の影響もあり双子果が多く、6月に非常に高温だった為に熟し過ぎの熟れ果となり全県的に不作となった。櫛引地域では収量が3割から4割減少。本当に農家の皆さんにとって大変な状況となった。

市では、例えばふるさと納税でもこのさくらんぼが返礼品となっているが、発送できないということになり代替品を送る等の対応をせざるを得なかった。

この地球の温暖化、気候変動してるその対応については、国や県の方とも県全体のサクラんぼ振興に関わることなので、県の対応策を鶴岡市・櫛引地域にも導入できるようにしっかり取り組んでいくということだと思う。

また、さくらんぼ、ブドウ、梨、ラフランス、リンゴ等の果樹農業の振興に対する農林水産部と櫛引庁舎と役割分担をしながら、農家の皆さんの経営の維持、それからなかなか継続が難しいとなってきた場合の樹園地の継承といったことまで、やることが結構多くあるが、一つ一つ支援制度を今あるものを活かしながら、また足りないものは構築しながら取り組んでいくということになる。

今ここに来る前に果樹農家の方にお話を伺って、例えばブドウであれば棚をちゃんと整備していく、また果樹の場合、植えてもすぐに収穫できないので無収益の期間とかの対策も国レベルであるわけだが、引き継いだ樹園地の老朽化してる棚をしっかりと維持していくとか、いろんな農家の設備投資を促して、少々風が来ても耐えられるようなそういう産地の支援と、息の長い支援が求められていると感じた。

したがって、私たちが農家の皆さんにわかりやすくこの支援制度をお示しして、できるだけ使っていただくということが必要だと思う。

この会議は櫛引地域の振興懇談会なので、やはりそういう支援制度のわかりやすい資料を用意してそういったことを示して、市としてこの果樹産地の応援に取り組んでいるということをおっしゃってもらうということが重要なことだと思う。振興懇談会で具体的な支援制度をもっとPRすればいい。いろいろやっているが、それがなかなか伝わってないところがあるのでそこはもう少し努力しなければいけないと思う。

それから、馬場委員にはフルーツ日記で情報発信に取り組んでいただいている。

また、ふるさと納税は農家にとってすごくいい制度だ。農家は発送票をただ貼り付けて送るだけでいいようになっている。輸送代は全て市が負担するし、請求書とかの面倒な処理もしなくてよい。今、ふるさと納税が鶴岡市で23億円を超えた。5年ぐらい前は5億円ぐらいだからもう4倍・5倍ぐらいの水準になっている。これには果樹農家の皆さんにも大変貢献していただいていると思う。ふるさと納税は農家の皆さんも簡単に新しい販路を開いて収入源になる良い制度だ。今日もそういう資料もあってもよかったと思う。もう少しいろんなところでPRをしっかりとやっていきたいと思う。

【E委員】

ゆ〜Townの食堂の利用者はどの位か、黒字になっているかお聞きしたい。

【市民福祉課長】

ゆ〜Townの食堂はテナントで、庄交コーポレーションから詳細は伺っていないが、厳しいと聞いている。

【E委員】

この地域に喫茶店が少ない。ゆ〜Townに家族連れや若者が来るように喫茶スペースを設定してはどうか。食堂が終わる15時から閉館までとか、個室を利用してでもよいと思う。

その際、『こしゃってマルシェ』のこだわりのコーヒーやこだわりのハンバーガーのお店の人に声を掛けて、特別感のある喫茶店にしてはどうか。

【市民福祉課長】

貴重なご意見有難い。内部で検討する。

【副市長】

実は私はたらのきだ이스キー場の隣の湯殿山スキー場の社長もやっている。今湯殿山スキー場は『R天国』で有名で若い方の利用が多く、冬は帰りに温泉に入りたいということでゆ〜Townに行って食事をする人もいるという話だ。関係者から日帰り温泉と食事や自動販売機設置で、ぜひ12月〜3月の期間、若者の誘客を図って欲しいということ言われている。それで、湯殿山スキー場のR天国とこの日帰り温泉を上手く結び付けて、スポーツ・健康増進の観点から振興を図っていききたいと思う。

そういった意味で、食堂から喫茶店ということは非常に良い着眼点をいただいたと思うので、ぜひ湯殿山スキー場の方でも、ゆ〜Town、たらのきだ이스キー場と連携して何かできないかよく考えていきたいと思う。どうもありがとうございます。

【H委員】

ゆ〜Town中にキッズスペースの設置はすごくいい案だと思う。

この地域には子供の遊び場がなく市内まで出なければ無い。それも有料施設が多いので、

自分の孫たちはわざわざ無料の施設の三川（テオトル）まで行く。鶴岡市がこれだけ大きいのにわざわざ遠くまで行かなければならないのかとすごくがっかりする。今度、遊佐にも施設ができるということで孫は今から楽しみにしている。遊ぶ場所がないので仕方なく加茂水族館の年間パスポートを買ったが遠いし冬場は行けない。そこで考えたのがゆ〜Townの広間を全部開放して遊べるスペースを設けてもらえば、小さい子も含め冬期間も遊ばせることが出来る。冬場は特にどこにも行けない状態で、子育てしてる人にとって安全な遊び場探しは切実な問題だ。よそにない『温泉施設の中に子供の遊び場がある』というものを、櫛引のゆ〜Townでつくり出していったらどうかと強く思う。もっとファミリー層に受け入れられるような物を置き利用してもらうことで認知度が広がり、それが好評だったら誘客にも繋がると思う。以前山添高校の跡地に遊び場を作ったという話があったが、あそこは県の施設なので様々な事情ですぐには出来ない。そういう意味でゆ〜Townはもったいないと思う。

【市民福祉課長】

大広間を全部開放するのは条例の問題でなかなか難しいという面もあるが、今後そういう方法もできないか検討していきたいと思う。

【支所長】

どうも貴重な意見大変ありがとうございます。今日の会議までいろいろ考えてきていただいたということで大変うれしく思う。

今回のゆ〜Townのキッズスペースは、小ぢんまりとした子供が絵本を読んだり若干遊べるようなスペースだが、設置することでファミリー層へのPRとなる。キッズスペースの状況を見ながら今後検討していきたい。

【H委員】

たらのきだいスキー場はすごく自然があつて景色もいいところなのに、半年以上も眠らせておき冬場だけの使用ではもったいない。夏場でも行けるちょっとしたスペースでファミリー層が遊べるアスレチック等を作ったら年中通して利用できる。それで訪れた人に冬はスキーもできると認知してもらえたら一石二鳥だと思う。子育て世代は毎週何処に出かけたらいいか悩んでいる。家の中で遊ばせるのには限界があり外に出かけて遊ばせることが出来たらとても助かる。たらのきだいスキー場はせっかくある財産なので、もし利用できるのであれば、今一番困っているファミリー層の子育ての手助けになる施策をお願いしたい。

【副市長】

湯殿山スキー場ではスキーシーズン終了の3月以降に、山の斜面に太陽光のソーラーパネルを設置し、その蓄電式バッテリーを動力元にしてロープ塔を動かす実証実験をここ2年間やっている。それにより冬期間の延長や4月中旬まで滑れるというメリットがある。冬だけではなく、夏場の斜面にそれを設置して、マウンテンバイクを運ぶとか、上から降りてくるとか、いろんな活用方法ができる。

たらのきだいスキー場は湯殿山スキー場より緩傾斜だが、アクセスが非常に良いファミリースキー場なので来やすいし、親子で楽しめるフィールドとしての良さがたくさんあると思う。そういった良さを活かし3スキー場で連携していくよう真剣に考えたい。

日帰り温泉ゆ〜Townでは創作スポーツに取り組んでいて、親子で遊べるフィールドというのは探せばあるのだと思った。

【市長】

H委員とE委員からのゆ〜Townについてのご意見、やはりこれをしっかり活かしていくことが重要だと思う。

先日、母と姉がゆ〜Townを利用し温泉も良く、キャラクターの『ゆ〜たん』もすごくよかったと言っていた。宮城さんの作ったキャラクターも非常にいいと思う

地域密着型組織で、先ほどコーヒーの話や子供の遊び場などの話があったが、それをちゃんと聞いて、事業に取り入れていくそういう仕組みが必要だと思う。

藤島地域振興懇談会では、長沼温泉ポッポの湯の地域密着型組織の会長さんが委員で、ものすごい熱心で自らポッポ通信を配ってPRしている。また、長沼温泉ではお子様1名500円でお風呂託児・子供夏祭り・赤川花火ライブビューイング・落語・マジックなど様々なイベントを行っている。食堂も様々な工夫を凝らしている。

やはり、いろんな人がアイディアを出して、それを聞きっ放しにするのでなくて実現していく話し合いというのがすごく重要だと思う。

だから、こういう場に地域密着組織の方に来ていただいて、一緒に意見交換することで懇談会が実りあるものになると思う。

私はコーヒーのことも『こしゃってマルシェ』の方と連携するのはすごくいいことだと思う。もうできるに決まっていると思う。庄交コーポレーションでも、どうやって誘客を図って地域の皆さんに受け入れてもらえるかということは常に考えてるはずだ。一緒に取り組んでいけばいいと思う。

子供の遊び場はちょっとしたことでいろいろできる。例えば今、鶴岡公園に噴水みたいな物を設置した。お母さんたちから「鶴岡は何もない」と言われて、一方公園管理の人たちは「鶴岡公園ではそういうことはやってない」とそういう感じだったが、別に大したことではなくてそういうのはすぐにできることだ。設置したらすごく喜んでいただいている。その噴水がある所で、荘内神社さんと連携して夕方のイベントもやっていた。そうやってにぎわいづくりを民間の皆さんがやってくれる。そういう民間の活動を誘発するような環境整備を一生懸命やっていきたい。

櫛引の中の子供の遊び場づくりのことも、近々、全市の遊び場の協議会を立ち上げる。その中では有料のソライの料金をどうしていくとか、市民利用の場合にはどうするかそれぞれの地域にある公園をどういうふうに遊具の方針をしていくとか、どうやって子供の声を反映するとかをいろいろ議論する。その時に今話があったゆ〜Townのことも、私からも言うが、忘れないように健康福祉部長にそちらからも言ってほしい。ちゃんと協議に乗せていって対応できるようにする。

例えば大山にある『だだちゃアリーナ』は子供に開放したりしている。だから櫛引のスポーツセンターも子供がアスレチックできるとかそういうようなことをやるだけでも、夏は涼しい中で、冬場も中で遊べる。既存の施設を有効活用することは可能だ。

新しい施設ということもいろいろ考えていく。図書館を整備・第2コミセンの児童館と連携した施設とかいろんなものを考えていくが、H委員からお話があったように、まだまだ既存の施設で温泉のスペースをもっと使えるのではないかと、たらのきだ이스キー場のこととか、もっともっと工夫次第で使える余地があるはずだ。そこであんまり躊躇しないで、今までこうだったからというふうにしなくて、簡単にできることが相当ある。まずそれをやりながら、大掛かりなものをしっかり検討していきたいと思うのでよろしく願いしたい。

【E委員】

ゆ〜Townで喫茶店を開くことについて、SNSで意見を集めて参考にした方がいいのではないか。

【市長】

これまでも住民の声を拾ってやってきたと思うが、10年前とは企画立案や住民の求め方が変わってきた。子供の声を反映させたり、男性のみの会議は正当性が無いとして女性比率も一定満たしたりしている。庁舎が微に入り細に入り決める時代は終わった。

コーヒーを飲める場所を作れないとか、ゆ〜Townの中に子供たちが遊べる場所がほしいというような声をしっかり聞きながら、政策、事業立案をしていくのがこの会議の目的でもある。

住民の声の集約の仕方の変更も求められているので、庁舎の皆さんも、それをぜひ楽しんでやっていただきたいと思います。お役所によるお役所のための事業は住民の皆さんに響か

ない。やはり、住民の皆さんの声を反映してやった事業は喜ばれる。

【F委員】

自分が30～40代の頃は、若いうちは何も言うなという感じだったが、年を取ってくると頭がだんだん硬くなる。その柔軟性を保つためにもいろんな方々とお話することが重要だ。

ここ10年～20年経ったら間違いなく人口は減っていくので地域密着型だけに固執しててはもったいない。外から人をどう呼ぶかが課題。黒川能の祭りの維持も難しい。10年以内には地域の小学校も一つになると思うので、どうなるのか今から考えておく必要がある。

ゆ～Townとたらのきだいスキー場は、昔は経営が一本化されていた。スキー場の夏利用の為「ほのかたらのき代」にピザ窯があり、飲食、宿泊も出来た。今は老朽化と経営の仕方もあると思うが。たらのき代では土田義晴さんが入った時も活性化した。当初はスキー客がゆ～Townで風呂に入り、食堂で飲食できた。維持することも大切で、なぜ維持できなくなったのか理由を考えなければならない。行政は経営のシビアさが分からない（得意ではない）。今何が必要か。

ゆ～Townの2階への階段が不潔に見える。「来てよかった」をつくるためにはどうするべきか。1年間をどう動かすか。過去がどうであったか。どうしていけばいいか。櫛引の多種多様のフルーツをゆ～Townで活用できないのか。

【副市長】

今のF委員の話を聞いていて、改めてその既存施設の組み合わせを考えてみることは非常に重要だと思った。

確かにたらのきだいスキー場とゆ～Townの関係、それからスキー場関係でいうと、湯殿山スキー場とたらのきだいスキー場。たらのきだいスキー場の素晴らしいところは、ナイターがあるところ。それで今若い人は湯殿山スキー場で滑ってそして夜ナイターで櫛引に行くというのが結構盛んだそうだ。

そういった意味では、今の施設の組み合わせをどうやってやっていくと今の若い人にとって魅力だろうかということをいろいろ考えていくことが必要だと思う。スキー場だけでなく、温泉だったり、温泉の中に先ほど言われたコーヒーの関係でどうやって複合的に考えていくのかというのを、いろんな人・年代を超えて高校生とか小中学生を交えていろいろ話しアイデアを出してみる。そういった時期なのかなと思っている。

ぜひ、そういった機会を庁舎の方で積極的に作っていただきたいと感じている。

【C委員】

今副市長の話とダブる部分もあると思うが、私も商売柄、宿泊客を受け入れているが、今年の冬は湯殿山のスキー客が何名か泊まった。大変年配の方が大半で、スキーから帰ってきてゆ～Townに送ってほしいという話も何件かあった。外国のお客さんも1週間ぐらい泊まってスキー場に通ったお客さんもいた。やはり湯殿山スキー場の魅力があるんだと思う。そこにはスキー学校の魅力が大きい。そこで校長を務めるのがプロスキーヤー渡部三郎さん。さすが大変ファンがついている素晴らしいスキー場だと思う。たらのきだいスキー場の場合は、ナイターが出来るとというのが最大の魅力で、庄内ではここだけだ。酒田からも来る。そこをやはりもっと売るべきだと思う。なかなか地元の人が地元を利用しないというのが、庄内の特質なのかその辺が少し落ちてると思う。これはゆ～Townにも同じことが言えると思う。やはり、たらのきだいスキー場はたらのきだいスキー場の魅力をとにかく出して欲しいと思う。

ゆ～Townはどういうお客さんをこれから確保していくのか。毎日のように来てくれる常客というのがどの位の割合なのか気になっている。それを増やすにはどうするか。例えば年間パスポートみたいなものをゆ～Townで出せるのかどうか、それによってお客さんがどれだけ増えるのかという、そういう検討も私はあっていいと思う。条例上どうなのか。

【市長】

条例改正はそんなに難しいことではない。憲法改正ではないのでそんなに難しいことで

はない。必要性があればやれることだ。C委員・F委員のおっしゃる通りで、やはり皆様方が経営者としてまた地元で現場を見ているので、私たちよりもこういうふうにした方がいいのではないかなというふうなことが出てくる。それを私たちは検討を行って、仕組みを作って、これを運営していく。やはり、運営していくその核となる人を的確に生み出していくということが一番重要で、難しいことになってくる。

加茂水族館が伸びているのは、やはり今2代目の奥泉さんがクラゲ好きで、そういう人が一生懸命やるから伸びていくわけだし、上野由部先生がやはり黒川能を引っ張るから、黒川能も大変な中で、今の時代に対応しながら、継承されるということになる。そうするとやはり責任関係の曖昧な組織というのは、誰がそれを受けとめて、誰の責任で実行していくのかというのが見えないと、なかなか改善が図られないということになってくるので、この櫛引地域に今あるゆ〜Townは、地域密着型組織なので、その意思決定の仕組みとか、こういういい議論があったときに、どう反映していくんだということを真剣に考えて、経営改正を図る仕組みを少しずつ積み重ねていくということだと思う。

たらのきだ이스キー場の場合は庁舎が直轄してやっているので、非常に責任重いし限界がある。そこに民間的な視点をどうやって入れていくのかということを考えていかなければならないと思う。自分たちが行政だからそれは苦手だとそれでは通らないので、行政がやっているにせよ、いかに民間的な視点を取り入れてやっていくかということなので、非常にいい意見が出てくると思う。

かつては行政というのは、商売とかそういった民間的なものはなかなかできないし、そんなところには踏み込まないということが多かったかもしれないが、一つ一つの政策がどういう効果を上げるのかということ、もうどの自治体でも問われていることだ。C委員が言った数万円の年間パスポートとか、そういう政策を導入したらそれによってどの程度売り上げが上がるのか、お客さんが増え、お客さんが増えてもやはり経営なので売上がどれだけ上がるんだということになってくると、それにどれぐらい費用を要しているのか、そこで経営として成り立つ良い施策なのかということ、行政はまず自己評価して、そして皆様からの外部評価を受け、取り組む、そういう流れだった。

今の行政経営というのは、EvidenceBasedPolicyMakingやらなければいけない。エビデンスベースポリシーメイキング、根拠に基づく政策立案ということ。データに基づく政策立案とも言う。ある政策をやり、それによって数字がどうなったのかということが問われている。中央省庁はみんなそうだ。地方行政においてもそういうことをやらなければならないので、どんどんチャレンジして、意思決定を早くして、住民の皆さんの声を反映して政策立案を打って、それが数字としてどうなったのかということを出してその評価を受けるということだ。

だから今日少し不完全ではあったと思うが、ゆ〜Townのそういう数字とかを出しながら、その因果関係を考えて政策立案していかなければならない。こうやったからこうなったんだというそのロジックを論理に基づいて、この政策を作っていくということを徹底していくということが、やはりまちづくりの第一歩だと思うし、すべてにおいてそうだと思う。

今日は少し文字が多かったような感じだが、ぜひ、これからは数字を出しながら、皆さんからいろいろご意見をいただいてそれを改善していけばいい。

【支所長】

市長よりお話あった通りこの懇談会で出された意見というのは是非反映させていくようにやっていきたいと思う。

ゆ〜Townでは2ヶ月に1回組合の理事会を行っていて、これまではそこで意見が出てもその場で終わってしまい、それは課題だと認識していた。

今年度に入ってからその時出た意見をすべてしっかり記録するとともに、もう一つ、実際の実戦部隊的な会議を開いてそれを実行に移す。具体的に考えてるのは、戦略会議的なものを開いている。それは組合と事務局と組合の中でも従業員の方がいるので、今、実際フロントに現場の方の声も聞きながらいろんなことを考えてやっているということだ。小さなことではあるが今年から夏休みの企画などもそういった声を反映してやった。

さらに、今日の懇談会の意見も反映させるようにこちらの庁舎の方で上につなげてやっ

ていきたいと思う。

それからたらのきだいスキー場については庁舎で直営だが、それに関わっている指定管理者としてはロッジに『ほのかたらのき代』の経営者で王祇建設。それとスキー教室の先生達。そういった団体も一緒に加わっているので、そこについてはやる前に戦略会議を年1回、2回ぐらい開いてる。どうしたら今年人が来るか、そういうイベントも考えながらやっている。

そういった場の検討の中にも、今日のような意見を出しながら実際にできることなのかということを探っていきたいと思う。

【G委員】

ゆ〜Townのことだが、役所では大分いろいろな努力しているということを私は見ている。この間の日曜日にも上山添の斎藤さんが紙芝居をやっていた。私は毎回ずっと参加している。この間は30人あまりの参加者だった。あそこは大広間でまだまだ人が入るので、もう少し地区に浸透するようなやり方をするべきだ。

さっき市長さんも言っていたが、せっかくいろんな意見を出し計画しても、協力してもらわなければどうしようもない。やはり地域みんなが協力をしなければ駄目だと思う。ただ口先だけでは駄目で、具体的に参加人数を取りまとめるなどの細かいところまで地区の人が協力しないと私は進まないと思う。職員の方々は自分の仕事として努力はしていると思う。問題は皆さんの協力を得るためにはどうしたらいいかだ。我々委員はそれぞれの団体の長であるわけなので、そういう人達が少し声を大きくして頑張らないと、いくらここでもいい案を出したって出来ないことだと思うので協力をお願いしたい。

【副市長】

会長さん、今いい意見をいただいた。

ぜひ委員の皆さんから一言ずつお話を聞かせていただいて、今後の方向のひとつの参考にさせていただきたいと思うがいかがだろうか。

【I委員】

たらのきだいスキー場の件で、自分の住む宝谷は高台にあって非常に自然がいっぱいで眺めのいいところだ。その隣にたらのきだいスキー場がある。やはり高台で日本海、庄内平野が一望できるたらのきだいスキー場は非常に良い場所だと思う。先ほどH委員のお話にもあったが、冬のスキー場を冬分だけの活用ではなくて、やはり年間通してスキー場に来てもらえるような、何かをやったらと思う。口ではあれやったらいいこれやったらいいと簡単に言えるが、それを実行に移すのは大変だと思う。一応考えてるのは、やはりスキー場は眺めがいいので、あそこに夏場も来てもらえるようにグレンデを花いっぱいにするとか、或いは山だから山菜が獲れるような山菜のグレンデにするとか、とにかくあの坂を利用したことをやって、夏場も人が来て『すごく眺めがいいね』とか、夏場も来れば『じゃあ冬場も来てみるか』となる。夏秋冬景色も違う。高台から見る白い冬場の白い庄内平野の景色と、夏場と稲穂が出た黄金色の景色とか、やはり四季折々の景色が見える場所だ。そういうものを年間通して来てもらえるような何かイベントとかいろいろ様々なことやったらいいと思う。口では簡単に言うけど、それを実際にやるとしたら相当な苦労も必要だと思う。一番は、やはり地元の方が地域活性化村づくりであそこを活用したいという地元の方の力、思い入れが入らないと、庁舎だけで一生懸命やったって駄目だと思うので、たらのき代地区の方々を抱き込まないとうまくいかないと思う。とにかく自然を有効に活用して人が来てもらえるような内容のものができればと思う。

【J委員】

日帰り温泉を利用しない或いはスキーをしない人へのきっかけづくりとして考えた。例えば、そこに行かないと食べれないスペシャルメニューとか、買えないというような、そういうものがあれば行くのではないかなと思う。要は写真映えするものだと女の子たちは行く。以前、たらのきだいスキー場にヒマワリを植えていたようだが。

【総務企画課長】

一応未来事業でやったが、太陽の向きの関係で花が全部山のほうを向いてしまってヒマワリが映えなかった。何か他の物を考える必要がある。

【J委員】

みんなのいろんな取り組みの中で出来ていることだと思う。そういうのも併せて人を集めるような方法が重要だと思う。チラシとか情報発信のことだが、何でも SNS で流せばいいというわけではなく、その SNS もそれぞれの強み、ターゲット層、このターゲット層にはこの SNS がいいとかは実はちゃんとあって何でもいいわけではない。それを間違っただって、SNS なら何でもいいやとやって結局ダメになることが多いので、そこをしっかりと考えて使って欲しいと思う。

【B委員】

私はゆ〜Town 開業以来の常連客で毎日通っている。私はゆ〜Town のサウナが好きでサウナに入りに行くのだが、水風呂がものすごく冷たくていい。羽黒は水道水なので温い。ゆ〜Town は地下水を利用しているのもものすごく心臓が止まるほど冷たい。それを合言葉に私は毎日入っている。今、結構地元の人でも 1 回来て良さが分かり人数も少しずつ増えてるような気がする。

キッズスペースの話はこれからやってみてどのような形になるかわからないが、確かにおじいちゃんおばあちゃんがメインだ。湯治場みたいな感じで入っている人がほとんどだと思う。腰が痛いとか、ゆ〜Town のお湯が痛いところに効くということに来てくれる方も大変多いと思うので、これから少しずつではあるが増えていくのではないかなと思う。

スキー場はやはり冬場のイベントを何か企画したら少しは人が来るのではないかなと思う。私たちも若いころはスキーをやったが、今はこの年になると寒い所に行きたくないの、どうしても引込み思案になってしまうのが現実だと思う。

【D委員】

個々の施設があるが、それを個々で全部物を揃えようと思ったら金銭的に無理があると思うので、たらのきだ이스キー場・ゆ〜Town・湯殿山スキー場の施設を連携して上手く利用できるように、何か工夫した方がいいと思う。ただ、お客さんと呼ぶなら地元で少しお金が落ちるような企画を考えたらいいと思う。

ゆ〜Town の年間パスポートだが、閑散期と混雑期で料金を変えるなど、柔軟的な価格にしたり、ゆ〜Town とたらのきだ이스キー場の抱き合わせチケットもいいのではないかな。

【E委員】

柏戸記念館の活性化で去年行った朗読劇の『柏戸少年期』が大変好評だった。規模としては、もっと鶴岡市民に柏戸の苦労をわかってもらいたいという思いがあり、振興会の予算もあると思うがタクトで大々的にやってもらいたい。

【産業建設課長】

生涯学習センターの振興会の方にそういったご意見があったということでお伝えする。

【G委員】

東部地区で行っているデマンド交通大変いい事業だと思う。利用する人は非常に喜んでいる。是非継続してもらいたい。

【総務企画課長】

デマンド交通は 3 年間の実証実験運行が終わり 11 月から本格運行に切り替わる。今、陸運局との手続きを進めている。今後ともご利用と PR をよろしくお願いしたい。

5 その他

委員より意見・質問

【G委員】

新聞で櫛引に大規模な産廃施設の計画があり、馬渡と田代とたらのき代では説明会を行ったと知った。田代地区は産廃新設計に反対とのこと。これに対して近隣の黒川下区にはなんの説明もなく区長がとても憤慨している。

【支所長】

産業廃棄物の焼却の施設が平成17年にたらのき代の桃平に出来た。今回老朽化してきたので新しい施設を建設することになった。その規模は現在の6倍ぐらいの大きさになる。令和3年に業者から市に計画の提出があり、令和5年3月に今の施設を建てるときに協定を結んでいる馬渡と田代とたらのき代で説明会を行った。田代地区については比較的近距离に水利の池があり心配なので説明会は2回行い、3回目も開催予定だが、余りにも大きすぎると地元では反対の署名運動も行われている。

【G委員】

黒川下区でも説明会を行ってもらえるのか。

【支所長】

黒川下区から不安の声が上がっていることで説明会開催要望の旨を業者へ伝える。

【A委員】

南小学校の児童が水無川に鮭の稚魚を放流させているが、これは未来事業にならないか。

【市長】

地域まちづくり未来事業は幅広くいろんなことで取り組みができる。今日の懇談会の一つのテーマだったと思うが、まちづくりで最も重要なことは、やはり住民の皆様が中心となって取り組んで、それに行政や大学・民間企業の方々が一緒になって自分たちの住む地域を暮らしやすくしていくということが重要だと思う。

先ほどの稚魚の放流ということは、まずどういうふうにもその狙いを設定するのかということだ。水産振興として取り組んでいく仕事なのか、あるいは身近な自然で子供たちにそうしたことを体験させたいのか、子供たちの郷土愛の醸成を図るためのものなのか、放流事業をイベントして交流人口を増やして地域にも所得が落ちるようにするとか、いろんな事業の作り方があろうと思う。その中で未来事業とは幅広く使えるものなので、これがもし使えたとすれば大いに活用していただければありがたい。

未来事業というものは、その財源として適切であれば、それに適した予算を活用していくということになる。

【C委員】

山添高校の跡地利用はどのように進んでいるのか。企業誘致の話はあるのか。

【総務企画課長】

県の話では、現在致道館高校の部活動利用と一般利用がある。使用頻度は少ないが継続使用している状況。不要となった時点で県が使用方法を検討し、何もなければ市に打診が来ると思われる。すぐにどうこうということはない。市では活用に関する視察研修を検討している。

【F委員】

空き家を事業団体が購入し養護施設等で活用する場合、地区費など地区としてどう対応したらよいか。

【副市長】

空き家については櫛引庁舎総務企画課に相談してください。本所でもコミュニティ推進課とか都市計画課とかに分かれていますので、まず窓口を櫛引庁舎総務企画課にさせていただくと思います。

市長・副市長のコメント

【副市長】

今日はいろいろお話をさせていただきましてありがとうございます。

私、日頃は馬渡の方に住んでおりまして、土曜日・日曜日帰るぐらいしかないですけど、馬渡では今一生懸命『川まちづくり』ということを進めておりまして、その延長で馬渡が清掃とか集落の方が一生懸命そこを起点にして、春であれば桜の時期になればお店が出たり、にぎわい創出に一生懸命です。そういった気持ちが多分この地域まちづくり未来事業に繋がっていくのかなと思います。

今日はいろいろなお話を伺えてよかったですし、また櫛引地域ではこういったお話があったということで他の地域でも紹介させていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【市長】

今日は大変活発な意見交換となりまして、これをどう具体化していくのかということに、地域庁舎としっかり議論しながら取り組んでいかなければいけないと思いました。住民の代表の皆様が感じて通り、今F委員からもお話ありましたが、この行政の施策というのは、行政上はいろいろ櫛引庁舎だとか、健康福祉部だとか、教育委員会だとかそういう区切りがありますけども、暮らしてる皆様にはまずそれはないわけです。いろんなことが関連して、地域づくりに取り組んでいただいておりますので、空き家を活用して、そこに福祉的な何かそういうものが入って、それをその集落の中でどういうふうにして地域住民の一部としてどういうふうにして共生していくのかということは、当然、住民の目線からすれば、当たり前のことです。役所の方に行きますと、関連している各部署を回ることになりがちなんですけど、できるだけ役所の中の意思疎通をよくいたしまして、住民の皆様がストレスなく対応できるように、頑張っていきたいと思います。

それから、このまちづくりにおいては、例えば山添高校の跡地活用の話もありましたが、やはりどういうふうにしていきたいのかということ、いろんな角度から出させていただくというのは大変重要なことだと思います。こうしたらいんじゃないかということを出していただく。今鶴岡市の中で、計画づくり、これから取り組もうというふうにしてるのも、やはり地域住民の皆様がこういうふうにしたらいんじゃないかというものを議論しながら、実行に移すようにしております。具体例を申し上げますと、例えば第二コミセンを、今度2小跡地の方に移そうというようなことで今考えておりますけど、それも第2学区の皆さんとよく話し合っただけで進めております。それから第3学区に松本十郎の生まれたおうちがもう古くなっているのですが、そこの跡地を活用してそこに学童を整備しようということも、第3学区の皆さんとやっておりますし、それから人工芝のサッカーグラウンド多目的運動施設、人工芝の施設これは山添もどうだとか、そういうこともあったんですけども、鶴岡病院を撤去して、それはそちらに整備するということになり今進めております。今後この公共施設をどういうふうにしていくのか。これは櫛引エリアだけの課題じゃなくて、中心市街地の中にも、これから図書館などの整備が進められていきますが、プールをどうするんだとかいろんな課題があります。そうした全市的な公共施設の再配置というようなことと、地域に必要な施設ということのバランスを取って、

いろんな取り組みを進めてまいりますので、本当に住民生活に身近なところから、大きな地域にとって重要な施設をどうしていくのかということも含めて、この地域振興懇談会は大変大きな役割が期待されるところでありますので、忌憚のないご意見をお出しただけたらと思います。

あとは、この会議自体の方にあまりとらわれすぎないで、今日申し上げた、例えばゆ〜Townのことを議論するのであればその関係者も一緒にこの際やってしまうとか、いろんな会議の持ち方の工夫はあると思いますので、ぜひ活発にして、その出た意見を具体化、どうやってやっていくのかということに、我々も努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は本当にありがとうございました。

以 上